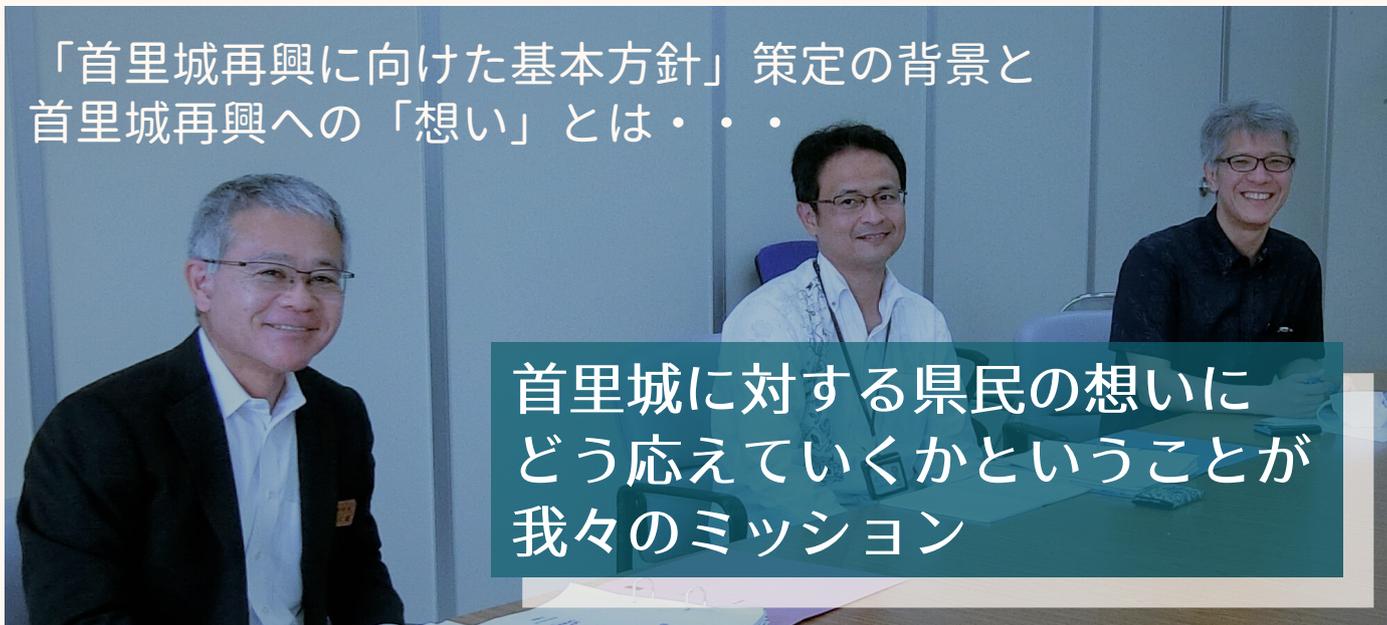


沖縄県知事公室特命推進課メンバーが語る 「首里城の復興と琉球文化のルネッサンス」

「首里城再興に向けた基本方針」策定の背景と
首里城再興への「想い」とは・・・



首里城に対する県民の想いに
どう応えていくかということが
我々のミッション

特命推進課の皆様（左から屋比久義課長、山城博康班長及び知念武紀主幹）

特別企画紹介

2020年（令和2年）4月24日、沖縄県は「首里城再興に向けた基本方針」を公表しました。基本方針は、下地芳郎氏（沖縄観光コンベンションビューロー会長）を委員長とする有識者懇談会での議論を経て策定され、コラム記事や写真なども含めた読みやすい内容となっています。そこで、今回は方針策定に携わった沖縄県・知事公室特命推進課の屋比久義課長、山城博康班長及び知念武紀主幹から、方針策定の背景と首里城再興への「想い」を聞かせていただきました。

この記事は、2020年5月1日に行ったインタビュー記録をもとに富永が構成したものです。

首里城復興と琉球文化の ルネッサンスの実現を目指して

聞き手：富永千尋（研究企画室 特命教授）

東 香純（大学本部 企画調整役付専門職員）

特命推進課は、2019年11月に立ち上がった知事直轄の組織「首里城復興戦略チーム」を引継ぎ、知事の特命事務を集中的に行う課として設置されたのですが、皆さんの自己紹介からお願いします。

【知念】

私は文化観光スポーツ部のMICE推進課から昨年11月18日に立ち上がった首里城復興チームに配属されました。専門は建築です。これまで様々なシンポジウムに参加する中で**多くの皆様が首里城の復元だけではなく、首里城の意義を見つめ直していることを強く感じた**のでその期待に応えていきたいと思っています。

【山城】

私は、秘書課政策調整監付けスタッフから首里

城復興チームに加わった当初メンバーなので、これまでの経緯も含めて紹介したいと思います。

首里城の火災直後から県民、国内外の方々からたくさんの声や想いが寄せられました。特に那覇市のクラウドファンディングでは、わずか3日間で1億円もの寄付が寄せられたのは大きな衝撃でした。**国内外の強い関心、寄せられる声や想いの受け皿となることがチームを立ち上げた出発点**だったと思います。

首里城という建物と公園の管理は土木建築部の所管ですが、ハードだけでなくソフト面での施策を部局横断的に取り組む必要があるということもチームが設置された理由の一つです。

首里城に対する県民の想いにどう応えていくかということが我々のミッションだと感じています。県民の目に見える形で首里城復興に貢献してゆきたいと考えています。

【屋比久】

昨年立ち上がった首里城復興チームは本年度から特命推進課となり、私は課長として4月に着任しました。当初メンバーの山城さん、知念さんを含め5名の課です。火災当時、企画部科学技術振興課長だった私は県外出張中でしたが、**出張先で多くの方々から首里城火災について声をかけていただき、改めて首里城が文化的遺産として認められていることを実感**しました。

そして本年度から首里城復興と琉球文化の復興というミッションに携わることになりました。

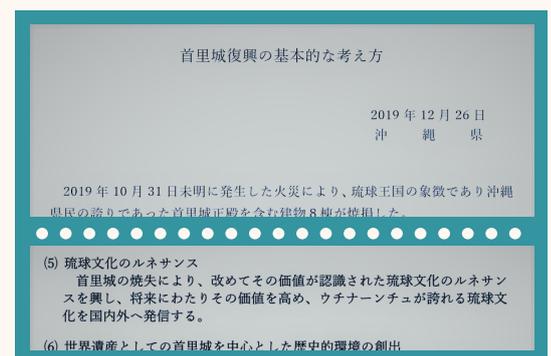
沖縄県は昨年12月26日に「**首里城復興の基本的な考え方**」を公表しました。火災後のショックもまだ冷めやらない時期だったと思うのですが、「琉球文化のルネッサンス」を復興の柱の一つにした背景を教えてください。

【山城】

最初に議論したのは、国と県との役割分担でした。国は12月には正殿を含む建物の再建を打ち出していました。首里城に対する県民の想いの後ろにあるものは何か。建物が失われてはじめてわかる大切なもの、目にみえない歴史や文化。富川副知事は「おきなわのちむぐる」[1]という言葉で表現していましたが、そういった沖縄の心が集約されているのが首里城ではないかと。

ちょうど、11月16日の新聞紙上に佐藤優氏[作家、元外務省主任分析官]の「首里城再建は建物の再建だけではなく、首里城という可視化された背後にある琉球文化のルネッサンスを起こすことにある」というコラム記事が掲載されました。

こういった考え方も取り入れながら、県として取り組むべきことを突き詰めていったときに「沖縄の文化の価値を見直すきっかけにする」ことが、復興の考え方のひとつとして打ち出されました。



「首里城復興の基本的な考え方」該当箇所

[1]ちむぐる（肝心）：心。精神。／用例：「あれー ちむぐるぬ りきとーん（あの人は心のあり方が立派である）」

【屋比久】

ご承知のとおりルネッサンスは14世紀から16世紀にヨーロッパで起こった「文芸復興」の動きです。古代ギリシャ・ローマの自由闊達な文化をとりもどす一方で、新しい文化を創造したのがルネッサンスだったと思います。

沖縄でも、先祖が営々と築いてきた文化がありましたが、それに目を向ける機会は少なかったと思います。その象徴といわれている首里城を失ったことで、改めてその価値、よりどころに気付いたのではないのでしょうか。今に生きる我々が沖縄の歴史・文化を理解しなおし、未来に向けて新しい沖縄の文化を創造し、伝えていくことがルネッサンスの意味ではないかと私は理解しています。

ルネッサンスを具体的にどう進めていくのか、これから頭を悩ますことになると思いますが、具体的な取り組みへと発展させていくためには、学術的な基礎・基盤が必要です。琉球大学をはじめとする学術ネットワークのサポートを期待しています。

県はその後「首里城復興に関する有識者懇談会」を開催し、「基本的考え方」に肉付けをした「基本方針」を策定していますが、懇談会の議論で強調されたこと、印象に残ったトピックは何でしたでしょうか。

【知念】

基本方針は9つの柱[次頁に掲載]で構成されていますが、その3番目にある「首里城公園の更なる魅力の向上」は、懇談会の意見を受けて追加された項目です。首里城は観光スポットになっていますが、県民の訪問が少なかったのが現状です。神聖な場所ということからイベントにもあまり利用されていなかったことも影響していたかもしれないのもう少し県民が活用できるように工夫できないかという提案がありました。

また、組踊[2]を正殿や御庭（うなー）[3]で演じることで厳かな雰囲気醸し出され演者にも良い経験になるとの意見も印象に残りました。

【山城】

方針の8番目「琉球文化のルネッサンス」にも多くの意見が出されました。歴史・文化の専門家が多かったこともあり、個人的にも勉強になりました。

琉球文化は王朝文化として首里城を中心に泡盛や三線、織物が広がっていきましたが、その一方で、久米島や奄美大島のつむぎ、大宜味の芭蕉布など、地域にあった文化と王朝文化が融合して形成されていったことや、首里城を中心とした王朝文化も重要だが、地域にある文化があつての琉球文化であるということも多く委員がおっしゃっていたことが強く印象に残っています。

また、こういった沖縄の文化を積極的に国内外に発信していく必要があるという意見

[2]組踊とは、せりふ、音楽、所作、舞踊によって構成される歌舞劇であり、首里王府が中国皇帝の使者である冊封使を歓待するために、創作された。ユネスコの無形文化遺産にも登録されている。



組踊「執心鐘入(しゅうしんかねいり)」

(組踊上演300周年記念 首里城復興祈念公演)
(「基本方針」21頁より)

[3]正殿の正面に位置した広場のことで、昔から琉球王国において儀礼を行う場所であった。



(©国営沖縄記念公園(首里城公園))

も多く出されました。

【屋比久】

首里城は沖縄の歴史・文化の象徴といわれていますが、その一方で宮古八重山の人たちにとっては、過酷な税を課した支配者の象徴だったとも捉えられます。すべてが「首里城すばらしい」ということではないかもしれません。琉球王朝の評価は別にして、王朝文化と地方文化が融合した琉球文化は現在も伝統工芸や芸能として地域で大切にされています。先島や他の地域の歴史も踏まえて、いろいろなことを正確に伝えてゆくことも我々のミッションだと自覚しています。

基本方針では、多くの項目で、「研究」、「最新技術の活用」、「県内大学との連携」、「ICTの活用」、「学術的に研究する拠点づくり」など、学術・研究に関する記述が多くみられますが、学術・研究・教育など高等教育機関に期待することについて教えてください。

【知念】

年明けに県立博物館・美術館で開催された「伝統工芸の手業展」を見ました。伝統工芸の技術を科学的に検証しながら復元していく展示はとても印象に残りました。昔は徒弟制度の中で技術が伝承・保持されていたと思いますが、現代では科学的な裏付け、下支えも必要になると思います。

また、技術や文化を県民に伝える際、**研究者の講話は「想い」が入っているので伝わりやすい**と思います。多くのシンポジウムに参加しましたが、研究者の講演はすっと入ってきます。そういった機会を増やしていただけるとありがたいです。

【山城】

昨年12月22日の緊急学術シンポジウムにはチーム全員で参加させていただきました。ちょうど「基本的考え方」の原案ができていた頃だったのですが、シンポの内容も参考にさせていただきました。

行政的な視点だけでなく、歴史、文化、技術など学術面での深堀が必要だとその時に実感しました。行政的な考えでは及ばないところがあるので、**考え方の基礎となる学術面での協力をいただきたい**と思います。

「首里城復興基本方針」(骨子)

- 1 正殿等の早期復元と復元過程の公開
 - (1) 伝統技術を活用した施設整備
 - (2) 木材、瓦等の調達に向けた取組
 - (3) 復元過程の公開による観光資源等としての活用
- 2 火災の原因究明及び防火設備・施設管理体制の強化
 - (1) 再発防止に向けた防火設備等の強化
 - (2) 安全性の高い施設管理体制の構築
- 3 首里城公園のさらなる魅力の向上
 - (1) 国営・県営区域の一体的利用
 - (2) 多様で柔軟な施設の利活用
- 4 文化財等の保全、復元、収集
 - (1) 首里城跡の適正な保全と価値の周知
 - (2) 文化財等の復元、修復及び収集
- 5 伝統技術の活用と継承
 - (1) 伝統的な建築技術の活用と継承
 - (2) 美術工芸における伝統技術の継承
- 6 「新・首里杜構想」による歴史まちづくりの推進
 - (1) 歴史を体現できる風格ある都市空間の創出
 - (2) 首里城公園及び周辺地域の段階的整備
 - (3) 交通環境の整備
- 7 歴史の継承と資産としての活用
 - (1) 多様で魅力ある観光資源の活用
 - (2) 平和を希求する「沖縄のこころ」の発信
 - (3) 次世代を担う子どもたちへの継承
- 8 琉球文化のルネサンス
 - (1) 多様性・独自性を持つ琉球文化の再認識
 - (2) 琉球文化の復興と新たな文化の創出
 - (3) 国内外へ向けた琉球文化の発信
 - (4) 琉球文化を活用した産業振興
- 9 基本計画の策定・推進
 - (1) 県民の意見を踏まえた基本計画の策定
 - (2) 国内外の学術ネットワークとの連携
 - (3) 県民等の継続的な参加による復興

「首里城復興基本方針」に基づき作成



2019年12月22日 本ネットワークが開催した首里城再興緊急学術シンポジウムの様子(左)、ちらし(右)

【屋比久】

例えば、瓦について、昔の材料や製法がどういうものだったかを学術的に明らかにして、それをバックボーンに現代の職人が瓦造りに取り組むことが想定されます。

また、ICTの活用により、首里城地下の32軍壕を再現することや、平和学習として伝えるための効果的な手法など、工学部・理学部・教育学部の先生方がタイアップしてオリジナルの技術を開発することも考えられます。

幅広く考えていく必要があるので、**先生方や研究者の皆様のとんがった発想が入るとイノベティブなものになると期待**しています。

本年度中に首里城復興基本計画をつくることになっていますが、今後動き出す様々な取り組みのポイントについて教えてください。

【知念】

昭和59年に策定された首里杜構想を新たな構想へと発展させることに取り組んでいきたいと思います。首里城周辺は交通渋滞、直行・直帰型観光などの課題が顕在化していましたが、火災後は首里周辺を観光客が散策するようになり、識名園も含めて観光客が分散していると聞いています。**首里城周辺の活性化は那覇だけでなく離島も含め、どのような連携ができるか考えていく必要がある**と思います。

【山城】

前回の復元時には、首里城復元期成会を中心に民間主導で復元に向けた要請活動などを行っていました。今回は、学術ネットワークをはじめ、経済界や観光団体、地元の首里でも復興に向けて自主的な形で様々な取り組みが行われていて、このような動きを全県的に広げ定着させていくかが課題と考えています。基本方針の9に示しているように**県民全体が継続的に首里城の復興に取り組んでいく仕組みづくりが重要**です。

首里城の木材は国頭から切り出され、与那原で船から陸揚げされたと聞いており、地域ごとに首里城との関わりがあるので、その関係をストーリーにしていけるのも一つかもしれません。新型コロナウイルス感染症の影響で、首里城への寄付も下火になっている傾向がありますが、この感染症に負けずに復興を盛り上げていく取り組みができればと考えています。

【屋比久】

全県的な取り組みとして、**破損瓦の活用法を公募**していますが、国有財産の処分にあたるため収益を見込んだ提案は対象にならないという制約が大きなハードルになっています。

アイディアの提案はあるのですが、実行まで含めた提案はほとんどありません。財源も含めて考えていく必要があり、先生方や学生をまきこんだ提案があると嬉しく思います。県から補助が出せないというのが大きなネックになっていますが、財源につい

首里城破損瓦等の利活用イベント

首里城破損瓦等利活用アイデア募集について ※現地見学会延期・募集期間延長

首里城火災により、首里城を代表する伝統的な部材である赤瓦や漆塗りの木材なども、その多くが割れたり焼け焦げたりするなどの被害にあいました。大量に発生したこれらの破損瓦等については、その利活用を希望する声が上がっています。

本イベントは、利活用を希望する方からアイデアを募集し、破損瓦等を提供し、様々なイベントや活動を行っていただくことをとおして、首里城への思いを多くの方と共有し、形として残していくことを目的としています。

募集期間：令和2年4月1日(水)～4月30日(木) → **5月29日(金)まで延長**します

詳しくはこちらをご覧ください。



沖縄県特命推進課HPより

ても良いアイデアがあると助かります。

また、今後策定する実施計画は広範囲にわたっており、県の計画としてどこまで具体的なプランとして落とし込んでゆけるか、各課との協力が必要なので、私たちの課の力量も問われることになると思います。

「首里城再興学術ネットワーク」は、組織の枠を超え、研究・教育などの学術面で息長く首里城再興に貢献していくことを目指しています。最後に、首里城再興学術ネットワークへの期待をお願いします。

【屋比久】

基本方針では、首里城復興に向けた継続的な取り組みに向けて、幅広いネットワークを作っていくことが重要であるとし、高等教育機関や研究機関には「智の資源」による貢献に期待しています。

例えば、首里城再興ネットワークのポータルサイトに掲載されている200篇近くの論文の活用や、学術ネットワークをどうして、歴史、文化、教育、地域づくり、ICTなどの分野で多くの先生方や学生の皆様が首里城の復興と琉球文化のルネッサンスに参画していただくことに期待しています。

また、シンポジウムやワークショップなどでいろいろなお話を提供していただくことも多くの県民から期待されていると思います。

今後、学術面でのネットワークとして、首里城再興学術ネットワークを位置付け、ともに協力しながら首里城復興と琉球文化のルネッサンスを実現してゆきたいと思います。

(了)

[沖縄県特命推進課HP](https://www.pref.okinawa.lg.jp/site/chijiko/tokumei/index.html) 【URL】 <https://www.pref.okinawa.lg.jp/site/chijiko/tokumei/index.html>

首里城復興に県の方針や取組等が掲載されています。

[沖縄県特命推進課 公式Twitter](#) アカウント名：沖縄県特命推進課 または @okinawa_SMpref

4月24日に公表された「首里城再建に向けた基本方針」の第一印象は、「行政文書としては読みやすい」ということでした。そこで、担当者へのインタビューを思いつきました。

広い会議室で間隔を取りマスク着用でのインタビューでしたが、屋比久さん、山城さん、知念さんの「想い」は十分に伝わってきました。

また、首里城再興に学術がどのように貢献できるかについても、いくつかの示唆をいただきました。

お忙しい中、対応いただいた特命推進課の皆様はこの場を借りてお礼申し上げます。

[首里城再興学術ネットワークWEBサイト](#)では、首里城再興に関する学内外のトピック等をご紹介します。是非お立ち寄りください。

【WEBサイトURL】 http://www.res.lab.u-ryukyu.ac.jp/shuri_top.html

Twitterでも情報発信！アカウント名：首里城再興学術ネットワーク または @ShuriNet_Ryukyu

このインタビュー記事に関するご質問やご意見は、首里城再興学術ネットワーク (SHURI_NET@ACS.U-RYUKYU.AC.JP) へご連絡ください。

首里城再興 学術ネットワークについて

琉球大学は、学術的な立場から首里城の再興に貢献します。

首里時代を伝える石碑など



首里城公園にある琉球大学跡の石碑



琉大構内の首里城の碑



(碑の裏面の日本語訳文より)
沖縄戦で跡形もなく破壊された首里城は、1166年から1879年の間、琉球国王の居城であった。琉球王国がその黄金時代を誇った1477年から1526年にかけて、壮麗な建造物が構築された。現在は、琉球大学の本館が、その首里城正殿跡に建っている。

組織の枠を超え首里城再興に学術面から 貢献するプラットフォームを目指して

"琉球大学は、1950年、沖縄戦により灰燼に帰した首里城の跡地に創設された。"

2007(平成19)年5月22日に制定された琉球大学憲章前文は、この一文から始まります。琉球大学(以下、本学とする)は、開学から前回の復元事業の本格化に伴い現キャンパスへ移転するまでの約30年間、首里城跡地で教育研究活動を行ってきました。

2019年10月31日の火災による首里城の焼失は、首里を発祥の地とする本学にとっても大変悲痛な出来事であり、国内外の多くの皆さまと悲しみや再興に向けた熱意が絢交ぜになった「想い」を共有しました。

火災当日、本学は学長のメッセージとして、首里城再建への協力を表明するとともに、学術面からの貢献を目指し、12月22日に「首里城再興緊急学術シンポジウム」を開催し、首里城再興に関する学術ネットワークを構築することが提案されました。

これを受け、2020年1月に「首里城再興学術ネットワーク」(仮称)の設立に関する学長諮問に基づき、本学研究企画室に首里城再興学術ネットワーク(準備室)を立ち上げ、ポータルサイトによる学内外の情報発信を行うとともに、3月10日には「首里城再興学術ネットワーク構築に向けた現場視察」を行うなど、学術ネットワーク構築に向けた取組を進めています。

本ネットワークに関する検討状況などの詳細は、こちらをご覧ください。

【これまでの主な取組】



首里城再興緊急学術シンポジウム
(2019.12.22)



首里城再興 学術ネットワーク (準備室)

琉球大学は、学術的な立場から首里城の再興に貢献します。

ポータルサイト開設



首里城再興学術ネットワーク構築に向けた現場視察(2020.3.10)

首里城再興研究プロジェクト

琉大校内公募研究(募集中) ~締め

「首里城再興学術ネットワーク(仮称)」の設立(準備中)に貢献する研究を推進することを目的としたプロジェクトです。首里城の再興とどのように関連するのかを明確に実施する予定です(現在、学内で支援研究を公募中)。

本プロジェクトは琉球大学の教員を対象としています。本学では、組織の枠を超え首里城再興に学術面から貢献すること、他大学や学外組織と連携した提案も可能です。

首里城再興に貢献する研究と言っても、その課題は多岐にわたります。例えば、首里城の歴史、首里城の建築、首里城の文化、首里城の自然環境、首里城の観光資源、首里城の教育資源、首里城の社会資源、首里城の国際関係、首里城の未来展望など、様々な分野から貢献を期待しています。

首里城再興研究プロジェクト学内公募



首里城再興学術ネットワーク(準備室)

琉球大学 首里城ネットワーク担当  shuri_net@acs.u-ryukyu.ac.jp



← ポータルサイト

Twitter →

